



十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第71号

太素塚元朝参り 2013.12.31~2014.1.1



祝 土木学会 選奨土木遺産に 「三本木原開拓施設群」登録決定！

2013(平成25)年10月11日(金)「三本木原開拓施設群—稲生川穴堰、十和田市市街地—」[竣工年:稲生川上水=1859(安政6)年/市街地形成=1860(万延元)年以降]が、公益社団法人土木学会の「選奨土木遺産」に登録されました。八戸工業大学阿波稔教授が中心となって、同学会東北支部より推薦いただき、土木学会は受賞理由を「幕末期より始まった十和田市周辺地域の発展の礎であること」としています。選奨土木遺産認定制度は、人々の暮らしを支えてきた歴史的な土木施設とその役割を、私たちの宝物として見つめ直し、後世に伝えることを目的に、土木学会が2000(平成12)年に創設したものです。稲生川開削と三本木原開拓の歴史的意義や精神性については2006(平成18)年農水省の「疏水百選」に始まり、2011(平成23)年日本ユネスコの「未来遺産」登録など高く評価されていますが、今回の受賞では、新渡戸十次郎により万延元年に始められた碁盤の目状の都市計画とまちづくりが北海道域に与えた影響にも言及しており、評価ポイントが更に広がりを見せています。



■公益社団法人 土木学会
1914(大正3)年11月に社団法人として設立、2011(平成23)年4月公益社団法人に移行し、今年100周年を迎える由緒ある学術団体です。国内有数の工学系団体で、2012(平成24)年7月末現在会員数は約3万6千人に登ります。「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」ことを目指して、さまざまな活動を展開しています。
詳細は >> 土木学会サイト www.jsce.or.jp

新渡戸塾 講演会『十和田市農業発展の歴史と未来への展望』

講師：北里大学名誉教授 小林裕志 先生 日時：2014年3月15日(土) 14:00~15:00 場所：新渡戸記念館

新渡戸稲造没後80年記念 新渡戸塾連携展 主催：十和田市立新渡戸記念館 協力：Kyosokyodo(共創郷土)

新渡戸稲造『農』への道 -三本木原開拓から農業本論へ-

■会期：2013年10月30日(水)~2014年2月28日(金) ※好評につき延長
■場所：十和田市立新渡戸記念館 一階企画展示コーナー

1876(明治9)年14歳の稲造は、祖父・傳にはじまる三本木原開拓への明治天皇の御嘉賞をきっかけに農業開拓者を志し、札幌農学校に学びました。“祖父が開拓に着手した主たる動機は貧しい人々の救済にあったと私は理解していた”著書『幼き日の思い出』にそう記しています。実際に北海道の開拓民たちと交わり、その心に寄り添う中で、産業としての一面に留まらない「国の礎」としての農業と農村の大切さに気付き、後の大著『農業本論』[明治31(1898)年出版]の執筆へと結実していきます。幕末の世に、農民と目線と同じくして開拓に取り組んだ祖父の生き方に学び、開国後の近代日本において、グローバルな視点を加え、農学を発展させていった農学博士・稲造の姿を知っていただければ幸いです。

展示資料紹介

★「農業本論」改訂メモ

1908(明治41)年の増訂版以降に検討材料として集めていた直筆メモ。中にはその後の改定で掲載からもれた和歌のメモ書きも見られます。

改訂用メモ

★農人形

稲造は水戸烈公(徳川斉昭)が耕す人への感謝を忘れないように農人形を作り、食事前に初穂の心で飯粒を人形の持つ笠の中に供えた事に感銘して『農業本論』の巻頭挿絵とし、更に同じような人形を300個ほどつくり講演で配っています。

EVENT 開催報告

2013年度 新渡戸塾こども講座

新渡戸記念館・市教育委員会 共催
人づくり・地域づくり塾



※プログラムその1～その4は前号で紹介しています。



【協力：新渡戸記念館ボランティア Kyosokyodo (共創郷土)】

その5 世界と友だち PART ③ アフガニスタンの文化体験

■日時：2013年11月9日(土) 9:00～12:00 ■場所：プラスリーマスタダ

市内フランス料理店・プラスリーマスタダを会場に、駐日アフガニスタン大使館前副大使・現特別顧問パシール・モハバット氏を講師に迎え、アフガニスタンの歴史や文化についてお話を伺いました。モハバット氏は、現地の写真スライドをユーモアを交えて紹介下さり、子どもたちも熱心に耳を傾けていました。「アフガンについての報道は戦争などマイナスイメージのものに偏っており、日本の皆さんには本当の姿が伝えられていません。アフガン人は決して戦争を好む民族ではありませんし、アフガンは荒れ果てた所と思われていますが、タリバン政権崩壊から10年間の発展は目覚ましいものがあります。実は水が豊富で美味しい野菜や果樹が年中とれ、稲や小麦もとれる農業の国です。鉱物資源も豊かで、それを欲する周りの国からの侵略など不幸な歴史もありますが、文明の十字路と呼ばれるシルクロードの要所に位置するため遺跡も多く、多彩で素晴らしい伝統文化があります。もっとアフガンの普通の人々の生活や娯楽など、色々なことを知って理解して欲しいです」と語りました。ブルカや美しい刺繍の帽子など民族衣装を体験した後、お祈りへの呼び掛け「アザーン」や、アフガン音楽を聞きながら、アフガン料理の会食を行いました。プラスリーマスタダ増田保稔シェフ、キャラバンサライ包(安仲卓二社長)のアフガン料理人アフマド・ジャムシード氏が調理したチキンバラウ(炊き込みごはん)、コフタ(牛ひき肉だんご)、ミルクプリン、カルダモンティーをいただきました。米田省三教育長も参加され、稲生塾生と保護者およそ40名はモハバット氏とともにアフガン料理を囲んで楽しい一時を過ごしました。



その6 書の心は武士道の心・書道&茶道体験 <閉講式>

■日時：2013年11月30日(土) 9:00～12:00
■場所：十和田市民文化センター 邦舞邦楽練習室

稲生塾生と保護者など、およそ30名が参加し、書道体験では講師の大山綾園氏の指導で、塾生一人ひとりが武士道の言葉などから文字を選んで色紙に書きました。今年は、稲生塾の活動についての和歌を詠むことにも挑戦しました。茶道体験では、裏千家教授・稲本宗美氏からお茶についてお話を伺った後、実際に茶室でお茶と季節のお干菓子2種を作法に従っていただくとともに、掛軸や花入れお花などについても学びました。閉講式では小山田久市長(代理 西村雅博副市長)、新渡戸常憲館長、米田省三教育長から修了証と記念品の木札【制作協力：(社福)福祉の里・工房プリコロール様/経商事株式会社様】が授与されました。第四期生を代表して皆勤賞の子どもたち11名の中から、外和泰地くん、今晴香さん、長畑賀子さん、長畑幸子さんが感想を述べ、「まち探検で昔を知ることができて良かった」「行灯づくりで楽しみながら歴史を学ぶことができた」「来年も参加して壁新聞づくりをがんばりたい」「プログラムを通して仲間との絆を深めることができた」など稲生塾の思い出と来年度への豊富を語ってくれました。



2013年度 新渡戸塾モデルスクール事業

★『行灯ワークショップ』(講師：工作屋台村 吉田紀美男 村長)

およそ150年まえの稲生川上水成功後、新町稲生町で最初に行われた祭り“大行灯祭り”にちなむ「行灯ワークショップ」を以下の日程で行いました。吉田村長は三本木原開拓の歴史とともに各校が立地する地区の歴史も紹介し、行灯づくりを通して地域の先人があって現在の発展があることを改めて考えてみて欲しいと子どもたちに語りかけました。(寺子屋稲生塾出前講座として実施)

【開催日程】6月5日(水) 藤坂小学校・上切田小学校 6月12日(水) 松陽小学校 11月20日(水) 四和小学校



★『先人の志についての出前講座』(講師：新渡戸常憲 館長)

2月4日(火)「拓魂」を校是にかかげる十和田市立三本木中学校の2年生「立志式」において『新渡戸家の精神～稲造博士が残した武士道精神について～』と題し、三本木開拓を行った新渡戸三代の公に尽す志と新渡戸稲造の「武士道」などについて講演を行います。

寺子屋稲生塾 活動の成果展 今後の巡回予定

★稲生塾「まちの宝壁新聞」展

会場：十和田商工会議所1Fロビー
期間：2014年1月6日(月)～3月31日(月)

★稲生塾「書道・行灯作品」展

会場① 十和田市立新渡戸記念館
期間：2014年1月10日(金)～2月20日(木)

会場② 十和田湖公民館
期間：2014年2月23日(日)～3月23日(日)
※十和田湖公民館まつりにあわせて開催

寺子屋稲生塾の皆さんへ

十和田市には、歴史と伝統に育まれた自慢できる「宝」がたくさんあります。皆さんはこの「寺子屋稲生塾」に参加され、勉強し、新たな発見などを通じ、改めて「私たちのふるさと十和田市」を見つめ直す素晴らしい機会を得、経験をされました。新渡戸稲造の「武士道」精神を学んだり、150年前の大行灯を作ったほか、まちの「宝」を発見するため、「とわだ時空調査隊」として街を歩き、様々な店や施設を訪問し、そこで動く人々との触れあいを通じ、その店や施設の歴史や秘密、今と昔の違いや「宝」について調査しました。また、その調査したものについて、皆さんで協力し、壁新聞やビデオ制作という「形」に残してくれました。

この活動を通じ、皆さんは貴重な体験をしました。私たちのふるさと十和田市の良さを再発見したことに加え、様々なことに興味を持ち、実際に歩き、人と触れ合い、目で見、耳で感じることによってこそ、今まで気づかなかったことに気付けるということも学んだはず。今後、この経験を活かし、積極的に動き、じっくり考えることにより、自分自身の可能性を再発見することを期待しています。そして自分なりの、自分だけの「宝」を見つけて下さい。

まちの宝壁新聞展示会場として協力いただいた
青森銀行十和田支店 着倉康郎 支店長からのメッセージ





2013年度 新渡戸塾

【協力：Kyosokyodo (共創郷土)】

第2講座 講演会

『三本木原開拓と農業本論に学ぶ』

講師：十和田市立新渡戸記念館 顧問 新渡戸 明

■日時：11月16日(土) 14:00～15:00 ■場所：新渡戸記念館



お話しする新渡戸顧問



講演会の手前

新渡戸顧問は、稲造が農学を志したことと三本木原開拓の関わりを紹介するとともに、稲造の著書『農業本論』について、文明が発展しようとも農作物の大切さは変わることが無いにも関わらず、明治近代化以降農業を軽視する風潮が強まっていることについて警鐘を鳴らし、農業、工業、商業がバランスよく発展しなければ国の繁栄は望めない」と論じていると紹介しました。又、日本の食料自給率の低さについて「例えば和食の朝食であれば日本産の食材でその56パーセントがまかなえるが、洋食のメニューにすると国産は14パーセントほどになってしまう。土地ごとの生き方が“文化”であり農業は文化の礎であることがよくわかる事例だ。地産地消が叫ばれているが、これは人間本来のあり方に近い。『農業本論』の中には“農地は輸入できない”とあるが、その意味を今一度かみ締めた」と語りました。

★新渡戸塾オリジナルツアー「穴堰ツアー」

大好評!

■日時：11月5日(火) 9:00～12:00 ■場所：鞍出山穴堰内部など

総勢20名で太素塚を9:00に出発し、当館学芸員の解説で稲生川を見学しつつ取水口までバスで移動。法量農村公園を見学後、鞍出山穴堰出口に移動し、胴長などの装備に着替えました。水土里ネット稲生川山口秀勝課長補佐をはじめ職員の方々の補助を受けながら鞍出山穴堰内部に一部保存している昔の掘削痕を見学し、当時の工事の苦勞をしのびました。更に京ノ館の合流工へ移動し、今年度から着工となり、ここに設置される予定の稲生川小水力発電施設や、稲生川の構造や機能について、山口課長補佐から詳しく解説いただきました。



昔の掘削痕



穴堰と参加者

★日本文化体験「しめ縄づくり」講師：小笠原正氏、戸来陽子氏、沢口駿三夫氏

大好評!

■日時：12月14日(土) 14:00～16:00 ■場所：太素塚集会所

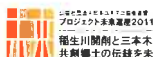
伝統的なしめ縄のほか、松ぼっくりや松葉、ミニ扇、木の実、リボンなどでアレンジしたクリスマス用とお正月用のリース型のしめ縄、今年の干支の「午」をかたどったしめ縄などを指導いただきました。毎年恒例の行事に参加者も増え、今年は40名以上の方にお申し込みいただいたため、太素塚集会所に場所を変更しての開催となりました。



しめ縄づくり指導



参加者の方々



太素の水プロジェクト活動報告

主催：「太素の水」保全と活用連合協議会 後援：十和田市 『稲生川クリーンアップウォーキング』

■日時：2013年10月19日(土)9:30集合10:00～13:00開催
■場所：一本木沢ビオトープならびに十和田市東公民館

1993(平成5)年稲生川市民フォーラム発足から数えて20周年を記念し、一本木沢ビオトープを中心に稲生川クリーンアップウォーキングを開催しました。十和田市長(代理母良田篤夫観光商工部長)、北里大学小林裕志名誉教授、中央病院丹野弘晃院長のご臨席のもと開会式を行い、参加者40名はゴミ袋を片手にクリーンアップを行いながら一本木沢ビオトープへ移動しました。一本木沢ビオトープ協議会 松田石松会長、佐藤幸一副会長より解説を受けながらクリーンアップした後、同名誉教授にビオトープの成り立ちや特徴について詳しくお話いただきました。北里大学院生竹原東来氏からもビオトープの生物に関する解説を聞き、一層理解を深めました。その後東公民館では、Kyosokyodoメンバーが調理した稲生米の新米(工藤文夫氏提供)のおにぎりや豚汁のふるまいもあり、大変おいしいと評判でした。会食会場には稲生川市民活動20年のあゆみをまとめたパネルを展示し、参加者にはお土産として稲生米2合がプレゼントされました。



開会式の様子



ゴミを拾いながら一本木沢ビオトープへ



佐藤副会長の出来栄の説明



解説する松田会長



お話しする小林先生



稲生米と豚汁をふるまっています



稲生米のおにぎりや豚汁

「太素の水プロジェクト」お問い合わせは「太素の水」保全と活用連合協議会事務局TEL 0176-23-4430(新渡戸記念館内)

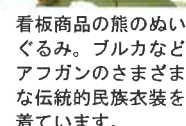
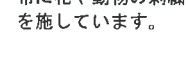
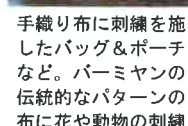
トピックス

Kyosokyodo 共創郷土がアフガニスタン女性の自立支援活動としてシルクロードパーミヤンハンディクラフト社へ協力



Kyosokyodo 共創郷土では、世界平和への実現に尽くした新渡戸稲造の精神を受け継ぐグローバルな活動も展開しています。アフガンの女性の自立支援活動はその一つで、シルクロードパーミヤンハンディクラフト社の商品をフェアトレードで仕入れ、非営利で販売する協力をしています。

世界との距離が近くなった現代では、十和田に居住していても世界の状況に関心を持ち、耳を傾け、自分たちの地域の文化を愛するのと同時に他国の文化も尊敬する、国際人としてのセンスを磨いていくことが求められます。Kyosokyodo は、十和田と世界の国々を文化的な活動を通して結び、自分たちができる世界平和に少しでも貢献していけたらとの願いで活動しています。



手織り布に刺繍を施したバッグ&ポーチなど。パーミヤンの伝統的なパターンの布に花や動物の刺繍を施しています。
看板商品の熊のぬいぐるみ。フルカなどアフガンのさまざまな伝統的民族衣装を着ています。

※現在シルクロードパーミヤンハンディクラフト社の商品は、当館と国立民族学博物館の2箇所に取り扱っています。商品に関するお問い合わせは Kyosokyodo(共創郷土)事務局 まで TEL 0176-23-4430(新渡戸記念館内) Eメール info@kyosokyodo.jp

新渡戸記念館オリジナルグッズに
ニトちゃんエコバックができました



全6色 頒布価格350円

mini NEWS

資料の寄贈

櫻田晃一郎 様(十和田市)
三本木新田肝入秀之丞関係文書

太素塚清掃奉仕

- ・10月6日(日) 11月3日(日)
- さわやかクラブ 様
- ・毎月27日Kyosokyodo(共創郷土)メンバーの皆様



昨年9月21日清掃奉仕に訪れた
大学通り老成会の皆様

ありがとうございました

関連情報

▶テレビ朝日プロデューサー松井英光氏来館

当館館長と親交のあるテレビ朝日プロデューサー松井英光氏が、「市民大学講座」(主催:十和田市教育委員会)の講演のため来十し、当館に来館されました。松井氏は講座において「新渡戸家三代の三本木原開拓から国際人・稲造につながる歴史は大河ドラマにぴったりです。新渡戸館長にはぜひ稲造の小説を書いてもらいたい!」と話されていました。



松井英光氏と

▶横尾忠則氏に新渡戸館長が面談

青森県立美術館「横尾忠則の『昭和NIPPON』反復・連鎖・転移」展のために県立美術館に来館されていた横尾忠則氏に新渡戸館長がお会いしました。横尾氏は新渡戸館長にとって少年時代から憧れの存在で県立美術館鷹山ひばり館長のお引き合わせで面談することができました。



横尾忠則氏と

▶二宮尊徳氏の子孫・中桐万里子氏来館

二宮尊徳氏7代目子孫であり教育学博士の中桐万里子氏が三戸モラロジー主催講演会のため来県されていましたが、同じく新渡戸家先祖の志を継いで活動する新渡戸館長に面会したいと、講演に先だち来館されました。



中桐万里子氏と

▶十和田ご当地でめぐりに新色「はなだ色」登場



オリジナルの水色の他に好評につき日本の伝統色「縹色」(はなだいろ)のニューバージョンが登場!

頒布価格500円

▶当館ボランティア Kyosokyodo (共創郷土) の新聞・ネット等での執筆活動

デーリー東北リレー連載“私見創見”に新渡戸富恵会長が以下の記事を寄稿。全国で地域再生に取り組む方々と「地・宝・人ネット」で意見交換も行っていきます。

【デーリー記事掲載日とタイトル】

- 9月30日(月)「経済的自立促す教育を〜アフガニスタン女性の自立支援〜」
- 11月4日(月)「国境越える互恵の精神〜コーヒーとバナナ〜」
- 12月23日(月)「武士道と世界平和への思い〜稲造没後80年〜」
- 1月27日(月)「稲造の精神〜農民救済から世界平和に昇華〜」

【地・宝・人ネットアドレス】www.47news.jp/localnews/chiikisaisei/

▶電動小型除雪機「オ・スーノ」大活躍

12月に(株)ササキ・コーポレーションのご厚意で市に寄贈され、太素塚の除雪に活躍中です。



▶新渡戸館長の著書「藝術とノエシス」出版祝賀会開催

11月3日(日)サン・ロイヤルとわだで「新渡戸常憲氏出版記念祝賀会」が開催されました。発起人・石川正憲十和田商工会議所会頭の挨拶の後、三村申吾県知事(代理 三千代夫人)小山田久市長、発起人でもある江渡聡徳衆議院議員、鷹山ひばり県立美術館長が来賓祝辞を述べられました。発起人・櫻田博幸市議の乾杯の発声で開宴となり、歓談中は、館長が所属する六本木男声合唱団団長 三枝成彰先生はじめ松尾翼弁護士、辰巳琢郎氏、建築家・竹山聖氏、十和田市観光大使でもある鈴木弘之氏、コシノジュンコ先生ご夫妻、館長の著書の表紙を描いた堀越千秋氏、詩人・小川英晴氏、ジャーナリスト・徳山喜雄氏などご友人からのビデオレターが流れ、楽しい一時を過ごしました。



出版祝賀会のようす

富恵夫人と

▶2013年度新渡戸友好都市議員交流会で Kyosokyodo (共創郷土) の活動について新渡戸富恵会長が発表

10月8日(火)十和田市議会会議室において研修会が開催され、Kyosokyodo (共創郷土) 新渡戸富恵会長が開拓の歴史を活かした地域づくりの実践について発表を行い、花巻市議会議員の方々を傾けました。翌日開催された懇親会には新渡戸館長と新渡戸富恵会長が出席し十和田市花巻市の両市議会議員の方々との親交を深めました。



花巻市議会議員の方々

▶学校法人北里研究所広報紙『雷』(いかづち)で一本木沢ビオトープを紹介

同誌No.14「最先端の研究現場から」の特集に、一本木沢ビオトープにおける同大学獣医学部生物環境科学科 杉浦俊弘 教授の活動が紹介されました。詳細はこちら>>www.kitasato.ac.jp/newsletter

活動報告

▶館長講師活動

- 9月22日(日) 一般社団法人茨城県経営者協会 青年経営研究会視察研修講話(演題:新渡戸稲造の武士道)
- 10月31日(木) 十和田東ロータリークラブ例会卓話(演題:世界の中の日本・青森・十和田〜シンクグローバリー〜)
- 11月13日(水) 澄月寺福聚会観音講講演会(演題:未来を拓く力)

▶博物館関係会議出席

11月7日(木)〜8日(金)第61回全国博物館大会(開催地:岐阜市/大会テーマ:博物館の可能性〜新たな博物館像をめざして〜)に館長が出席しました。

▶音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

日本ピアノ研究会主催、2013年度全日本ジュニアピアノコンクール11月10日(日)地区予選会(松山市)11月17日(日)地区予選会(前橋市)において館長が審査員を務めました。

編集後記

世界でも珍しい水上人形劇をハノイにて鑑賞した。田園風景や人々の営み、あるいは伝説などを題材としたこの伝統的人形劇では人形を操作する黒子は一切水面に姿を現すことなく裏で動かす。ちなみに写真は、妖精の踊りである。世界中から観光客も増え、経済成長も著しいベトナムで、今の劇の様な素朴なアジア的風情は見失いつつある。まちは、自動車やバイクが道に溢れ、排ガスでマスクなしでは歩くこともできない。いつの時代も、他国の文化や精神との接近により、初めて自国の文化の換えがたい価値を知るようになるのである。(館長 新渡戸常憲)



■ご利用案内

- ・開館時間:午前9:00〜午後4:00
- ・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館)年末年始(12/29〜1/3)
- ・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
- 小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2014年2月1日
編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax : 0176-23-4430
Email : nitobemm@hi-net.ne.jp
株式会社 岩間印刷